

日本人としての誇り

～感謝の心・敬意と尊厳とは～

【日本人がマスターズを制覇した！】

アメリカのジョージア州オーガスタで年に1度開催されるマスターズで日本人の松山英樹選手が優勝されました。信じられない光景ですが、まぎれもなく彼はやっつけました。どれだけのプレッシャーがあったらうかと彼のメンタルの強さや偉業を讃えたいと思います。



また、実況・解説をしていた日本人のアナウンサーや解説者の2人は松山選手の優勝に感極まり、中継中に涙している様子がうかがえ、声を震わせながら話していました。そんな様子にももらい泣きの朝でした。それほど日本人にとってすごい事だったのであります。私もゴルフはやりますが、100を切ったのは20歳代の若い時だけで、もっぱら健康管理と仲間づくりの為にやっています。

まさか、日本人がマスターズを制覇できる日が来るとは思いもしませんでした。これを機に、日本人は世界で勝負できるのだからもっと自信を持って良いのだと思いました。

【日本人の礼儀正しさに賞讃が！】

松山選手は、優勝賞金 207 万ドル（約 2 億 2697 万円）と優勝カップを手にししました。そして、キャディーも受け取れるものがあるそうです。18番ホールのフラッグを取っていくのが伝統とのこと。マスターズ優勝選手は賞金、トロフィーのほかにグリーンジャケットが贈られ、キャディーは大会で着た白のジャンプスーツをボーナスで与えられるそうです。そのまま持ち帰れるのではなく、ひとまず返却した後、「優勝を記念したい」という手紙を書けばオーガスタナショナルゴルフクラブが送ってくれるそうです。

優勝した松山選手がトロフィーを受けに行く時、キャディーの早藤将太さんがフラッグを取りに行ったそうです。フラッグを取り外したピンを再びカップに挿した後、早藤さんは帽子を取ってコースに一礼しました。その光景が世界に中継され、日本人の礼儀正しさに世界中が沸いています。フラッグを持っていくのは日本の高校野球の選手が甲子園の土を持ち帰るのと似ています。一礼をするのは日本人には感謝と敬意の表れとして当然の行為ですが、その早藤さんの行為をこれまで誰もマスターズで表現していなかったため、これが話題になり感動を与えたようです。

【日本人である素養と慣習】

早藤さんがさらにすごいのは、この後にもありました。何と松山選手が優勝インタビューを受けている間、一人だけ正座をしておりました。信じられない光景がアメリカのジョー



ジア州オーガスタにあるゴルフ場で広がり、ニュースとしては取り上げられませんでした。世界を席卷いたしました。

【松山選手のグリーンジャケット】

松山英樹が表彰式で袖を通したのは、マスターズの優勝者に贈られる「グリーンジャケット」。ゴルフ界最高の栄誉、と言えるジャケットですが、1年後には返却しなければならないというのですから驚きですね。誰が優勝するか分からないため、表彰式は大体のサイズの「仮ジャケット」を着させられ、その後クラブ内で採寸するなどして仕立ててもらおうそうです。そして、クラブ内に保管され、優勝者はクラブに来れば着ることができるそうです。

苦勞して手にした優勝の証を、空港では大切に扱いながらも隠すことはしない、そんな松山選手のグリーンジャケットの扱いやファンへの気遣いも称賛されているそうです。

【サッカーの世界でも注目が！】



2018年のロシアワールドカップで日本代表は惜しくもベスト8進出を逃しましたが、相手チームを含む多くの国から称賛を受けました。試合に敗れたにもかかわらず、選手達はロッカールームをきちんと清掃し、ロシア語で「ありがとう」と書いたメモまで残してきたそうです。ま

た、日本代表のサポーターたちも、敗戦後の悔し涙を流しながら、会場のゴミ拾いをしたそうです。これに、多くの国の方々から称賛を得ました。

自分たちでロッカールームの掃除をしたり、会場のゴミ拾いをしたりすることは決して難しいことではありませんが、決して賞讃を得たいからしたことはありません。自分たちの日本人としての素養の高さから自然に出来ているにすぎないと思います。日本人としての心の文化が継承している精神を物語っているのかもしれませんが。そんな心を私たちは持ち続けることがこれからも大事だと教えられた気がしました。

日本人初の優勝に世界を驚かせたキャディーの振舞の数々、感謝の心、敬意と尊厳は江戸時代からの朱子学の教えです。そんな教えが脈々と息づいて日本人の文化となっております。私も日本人として誇りをもって頑張ろうと思いました。

令和3年4月23日

明和町長 富塚 もとすけ